

活 用 事 例	茨城県筑西市立新治小学校	宮崎直美教諭・口町紀子教諭
活用事例タイトル	「町の未来予想図ペアプレゼン」をしよう	
対象授業科目/活動	国語	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	<p><活動の概要> 説得力あるプレゼンテーションを目指して、自分達のプレゼンを録画し、それを見ながら客観的に振り返り、よりよいものにしていくことをねらった。</p> <p><実施時期> 平成 27 年 11 月 5 日</p> <p><教科・単元名> 国語 町の幸福論プレゼンテーションをしよう ―「町の幸福論」コミュニティデザインを考える―</p> <p><対象学年・参加人数> 第 6 学年 40 名</p> <p><ICTの使用局面> 動画（プレゼンテーション）の撮影 再生、一時停止、巻き戻しによるチェック</p>	
ICT 活用により期待できる効果 ICT 活用のねらい	<p>4 人グループにタブレットを 1 台配付。相手を意識したプレゼンができるように振り返るツールとしてタブレットを使用する。単元の導入で教師によるプレゼンテーションを行い、各グループの児童が録画する。グループでプレゼンの準備を進める際に、プレゼンを行う際の参考として、自由に再生することができるようにしておく。自分達がプレゼンテーションを行う際には、客観的に振り返るツールとして使用する。撮影、再生、停止しながら、自分達のプレゼンを修正し、説得力のあるプレゼンを目指していく。</p>	
評価、振り返り（活動の評価や児童・生徒の声など）	<p>自分達のプレゼンの動画を見ることで、改善点を客観的にとらえられ、すぐにプレゼンをよりよいものに直していくことができた。</p> <p>このような ICT（タブレット）を学校に導入してほしいというプレゼンをしてきたグループもあった。</p> <p><児童の声> タブレットで先生（モデルとなる）のプレゼンをすぐに見れて参考にできたのがよかった。</p> <p>自分のプレゼンの良いところ、直すところが一目でわかった。</p> <p>タブレットは、とても便利だった。</p>	

5 本時の学習

(1) 目標

I C Tやルーブリックを使った言語活動を通して、自分の考えを明確にしながら、資料を効果的に活用した「町の未来予想図ペアプレゼン」をすることができる。

(2) 準備・資料

学習計画表、タブレット、ビデオカメラ、作戦ボード、プレゼン設計図、ワークシート
ストップウォッチ、プレゼンルーブリック(パフォーマンス編)、国語辞典
プレゼンルーブリック(小道具編)

(3) 展開

☆は、配慮すべき児童への支援 ◎は、読書活動充実のための手だて

学 習 内 容 ・ 活 動	形態 (時間)	指 導 ・ 支 援 と 評 価 T1 T2	
1 本時のめあてを確認する。	一斉 (8分)	・課題提示を工夫したり、小道具を使ったりして学習の導入を楽しく演出する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分や友達のプレゼンをチェックしながら、 説得力のある「町の未来予想図ペアプレゼン」をしよう。 </div>			
2 「ペアプレゼン」のルールとポイントを確認する。 (1) ルールの確認 (2) ポイントの紹介		◎図書館司書と連携を図り、協和地区に関連する本やパンフレット、新聞記事などを掲示し、児童の学習の手立てとなる環境を整える。 ・教師のバットプレゼン(バットモデル)を示し、グッドプレゼンになるためのパフォーマンスや資料の活用方法の改善点を児童から発信させる。 ・「ペアプレゼン」がスムーズに進むように、プレゼンテーションをする時のルールとポイントを児童とともに声に出して読み、確認する。	◎図書館司書と連携を図り、協和地区に関連する本やパンフレット、新聞記事などを掲示し、児童の学習の手立てとなる環境を整える。 ・教師のバットプレゼン(バットモデル)を示し、グッドプレゼンになるためのパフォーマンスや資料の活用方法の改善点を児童から発信させる。 ・「ペアプレゼン」のルールとポイントをしっかり確認できるよう読む声に合わせて掲示して、視覚的にも訴える。
3 チーム内で「ペアプレゼン」をする (1) 作戦会議 ・チーム ・ペア (2) プレゼンタイム①(前半ペア) ↓ 交流タイム ・パフォーマー(自己評価) →困った点 悩んでいる点 ・オーディエンス(相互評価) →よい点 改善点 (3) プレゼンタイム②(後半ペア) ↓ 交流タイム	チーム (25分)	・作戦タイムをとり、自分達のプレゼンの流れを確認できる時間を確保する。 ・ルーブリックやI C Tを活用してセルフチェックを行い、自分のパフォーマンスを客観的に見とれるようにする。 ・オーディエンスはルーブリックでチェックをしながら、視点をもってプレゼンを見とれるようする。	☆自分の考えを伝えることが苦手な児童には、ヒント

<p>・パフォーマー(自己評価) →困った点 悩んでいる点</p> <p>・オーディエンス(相互評価) →よい点 改善点</p> <p>(4) 作戦会議</p> <p>4 「ペアプレゼン」を発表する。</p> <p>5 学習の振り返りをして、次時の学習内容を知る。</p>	<p>カード(カンペ)でサポートする。</p> <p>・チーム内交流をする活動を通して、自分達の考えをさらに深められる時間を確保する。</p> <p>○評自分の考えを明確にしながら、資料を効果的に活用した「町の未来予想図ペアプレゼン」をすることができる。 (読む：ワークシート・ループリック・発言)</p> <p>・本時の学習の取組について称賛し、次時への学習の意欲付けを図る。</p> <p>一斉 (7分)</p> <p>(5分)</p>
--	--

プレゼンを録画



再生してチェック

